令和４年度 第３回川崎市宮前市民館専門部会会議録（要旨）

日　時　　令和４年　１２月　１３日（火）　１０：００～１２：００
会　場　　宮前市民館　第４会議室
出席者　　部会長　　・川西　和子　（調査モデレーター・各種司会）
　　副部会長　・山本　良子　（宮前第４地区民生委員児童委員協議会　会長）
　　委　員　　・渡辺　美代子（宮前区文化協会　会計）
　　・山本　太三雄（菅生分館利用者懇談会）
　　・髙久　實　　（宮前区全町内・自治会連合会　理事）
　　・楢崎　光雄　（市民委員）
　　・當間　幸江　（宮前区ＰＴＡ協議会　副会長）
欠席者　　・丸尾　明彦　（川崎市立西有馬小学校　校長）
　　事務局　　宮前市民館　　齊藤館長・岸本課長補佐・徳原係長
　　菅生分館　　田添分館長

会議の成立　（委員８名中７名出席）

会議の公開・傍聴人　なし

次　第
　１　あいさつ（市民館館長）
　２　資料確認等
　３　議　事
　（１）報告事項
　　宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業について
　（２）協議事項
　　今期の研究課題について
　（３）その他
　　令和５年度宮前市民館・菅生分館　市民自主学級・市民自主企画事業について
　４　その他

配付資料

資料１　令和４年度 宮前市民館社会教育振興事業実施状況

資料２　令和４年度 宮前市民館菅生分館社会教育振興事業実施状況

資料３　令和５年度 宮前市民館・菅生分館市民自主学級・市民自主企画事業募集実施概要

当日配付

宮前市民館専門部会　プロジェクトチーム第２回打ち合わせ記録

（参考）

●宮前市民館だより

第２４４号（１０月１日発行）、第２４５号（１２月１日発行）

●菅生分館だより

第１７４号（1月１日発行）

●宮前市民館事業チラシ

○「みやまえ子育てフェスタ」　課題別連携事業

○「現代の人権問題～人権を尊重した生き方を学ぶ～」　平和・人権・男女平等推進学習

○「保育ボランティア養成講座」　保育ボランティア研修

○「地域の力で学校を元気に！放っておけない子どもたちの放課後」　地域の寺子屋事業コーディネーター養成講座

○「スマホ相談会　１２月」

○「スマホ相談会　　１月」　現代的課題学習事業

○「高齢者のためのインターネット講座」　高齢者セミナー

○「お金からジェンダーを考える」　平和・人権・男女平等推進学習

○「古墳にこーふん！最終回」　市民自主企画事業

●菅生分館事業チラシ

○ 魅力発見ウォーキング　コロナに負けるな！楽しく元気に仲間づくり　高齢者セミナー

○ 学んで安心、初めてのスマホ　現代的課題学習事業

○「おしゃべりサロンすがお　これからの予定」　課題別連携事業

●生涯学習情報誌「ステージ・アップ」　Ｖｏｌ．２４３

開　会

１　あいさつ（市民館館長）

２　資料確認等

３　議　事

（１）報告事項

ア　宮前市民館の社会教育振興事業について、資料１を用いて徳原係長より説明。

菅生分館の社会教育振興事業について、資料２を用いて田添係長より説明。

（質疑応答）

楢崎委員

様々な講座があるが、参加費は無料か。

徳原係長

基本的には無料。外出時に保険をかける場合は保険料、講師が資料を用意した時に資料代がかかるときがある。

楢崎委員

識字学習活動について、どの国籍の参加者が多いのか。

徳原係長

コロナ前は中国が多かった。今は、アメリカ、フランス、セネガルなど様々な国籍の方がいる。コロナのため、在宅勤務が増えた為、昼のクラスに現役世代の男性も参加している。

髙久委員

菅生分館の講座に比べ、宮前市民館の講座の参加者が少ない。多くの講座があるが、一つの講座への参加人数が少ないように感じる。宮前区の人口の一部しか参加していないのではないか。

山本副部会長

コロナのために人数制限があるのか。

徳原係長

市民館の学級については、部屋の収容人数が限られる。コロナのため、間をあけて席を取ると多くても２０名までになるため、コロナ前より募集人数が減っている。スマートフォンを使った講座ではｉＰａｄを使用しているため、台数に限りがある。

山本副部会長

菅生分館のシニアの社会参加支援事業や高齢者セミナーはどのような方に講師を依頼したか。

田添分館長

シニアの社会参加支援事業、体力づくりの関係は明治安田生命に講師をお願いした。座学では地域の歴史に詳しい方にお願いした。高齢者セミナーでは、正しいウ

ォーキングの仕方はウォーキング関係の協会の方にお願いし、実際のまち歩きについては宮前区観光協会関係の方に講師をお願いした。今回、メロコス体操を踊ったが、総合型地域スポーツクラブのファンズアスリートクラブに講師をお願いした。

山本副部会長

他団体や関係団体とこれから連携を取っていこうという話も出ていた。高齢者セミナーの講座などは、包括支援センターへも声をかけてはどうか。

田添係長

メロコス体操については、地域振興課と連携し、前半は地域振興課の事業として菅生分館を使用し、後半は菅生分館の事業として引き続き講師をお願いすることで、講師料を無償としてもらった。

山本副部会長

他部署との連係で広がりが出ると思う。

川西部会長

傾向が際立ってきたと感じた。スマートフォンについては需要があり、スマートフォンの講座に参加する人は、初歩的な操作がわからない。指導は丁寧に行う事が良いと思う。

地元を知る企画、宮前市民館の「宮前を知って歩いて楽しもう」や菅生分館の「我が故郷　向丘村の人・川の関わり」は人気がある。シニアの参加が多いと思われるが、講座後の仲間づくりに繋がっているか。

徳原係長

シニアの参加者は多い。講座の中で連絡先を交換して後に繋げることは実際にあり、時間が経ってからも連絡を取り、散策や地域のまち歩き活動を始めている。同じような興味を持って集まっているため、その後に繋がっているのではないだろうか。

田添係長

菅生分館では、団体まではできていないが、参加者同士で連絡先を交換し、情報交換している動きはある。菅生分館を待ち合わせ場所にして集まっているようである。

川西部会長

仲間づくりが増えるといいと感じている。菅生分館の「おしゃべりサロンすがお」について講師を呼び、テーマを決めている時もあるようだが、参加者は固定しているか。

田添係長

大体固定メンバーである。

川西部会長

宮前市民館でもロビーでカフェを開いているが、メンバーが固定になってきている。その場での人間関係が濃くなっている傾向にあるので、シニアも地域の中での

自分の居場所作りを渇望しているように見て取れる。

赤ちゃんや子育てに関する講座について、赤ちゃんを持つその時期だからこその情報は重要だ。誰かと繋がりたかったり、先輩の意見を聞きたかったりすることは、世代別に考えても需要が高い。この時期に、地域の中でしっかりとネットワークを張り、保護者が仲間づくりをすることが、後に幹となると思う。積極的に取り組んでほしい。

楢崎委員

プロジェクトで、ＰＲ方法について話し合っている。資料１，２に参加者の年代や男女比などを載せてほしい。

川西部会長

広報する際のターゲット層をどこに絞るかということか。年度ごとに参加人数と性別は出ている。

徳原委員

現在、参加者の性別や年代は伺わない状況になっている。まち歩きなどで保険に入る場合のみ申込み時に確認をしている。

事業終了時にアンケートを実施しているが、任意記入となるためアンケートに年代を書いてくださる方のみ、何歳代かを把握するレベルである。

楢崎委員

一般的なアンケートは任意だが年代を書くことが多い。どんな年代かを書いてもらってはどうか。

川西部会長

わかる範囲で講座の都度、年代を聞いてみても良いのではないか。

（３）その他

令和５年度宮前市民館・菅生分館　市民自主学級・市民自主企画事業について、資料３を用いて、徳原係長より説明。

（質疑応答）

川西部会長

２月１９日（日）に審査があるが、事前に参加団体の資料の送付があるか。

徳原係長

コロナ前は、事前に資料は送付していない。コロナ後は、時間短縮のため、資料を事前送付し、当日は、自己紹介と質疑応答のみとなった。今年も、状況を鑑みて、場合によっては事前に資料を送付するため、内容を確認していただきたい。

川西部会長

来年のコロナの状況から対面になり発表者全員で来る場合、当日、資料を見て提案を聞いて質疑応答になる。市民館菅生分館で、それぞれ市民自主学級、市民自主企画事業がある。

徳原係長

提案と質疑応答、その後に専門部会がある。

齊藤館長

現在、菅生分館と宮前市民館併せて６件相談が来ている。その全てが参加した場合、提案に相応の時間がかかる。今後、応募が増える可能性もある。

川西部会長

以前より、参加団体が少なくなっているか。

徳原委員

コロナ前よりは減っている。

川西部会長

予算の関係上、配分を考え、全ての提案を認める訳にもいかず、似ている提案を併せたり、落とさなければいけないこともあった。

徳原係長

予算はある程度決められているが、６割以上の評価を取った団体が予算をオーバーした場合、教育委員会に相談し、提案数が少ない他館と調整が入る。できる限り、通った提案については実現していきたい。

川西部会長

今までの経験で、評価を付けづらいのは、市民と実施館で協働という提案である。例えば、地域振興課が関与し助けていると、点数の付け方に迷った。

徳原係長

企画提案会に参加している団体は、企画提案書をクリアしてきているので評価を付けることが難しい。初めて参加活動される提案団体には、協働で活動することで、企画運営などを学んでいただくことを目的としている。

髙久委員

評価「３」を取れば企画は通るのか。

川西部会長

人によって、評価点が違う。

徳原係長

１月の時点で相談を受け、事業として値すると判断し参加しているので、基本的に提案に問題はない。予算の関係ですべての提案を受け入れられない時は、点数順に選考する。

プレゼンテーションでは、やる気や気持ちを一生懸命説明してくださるので、点数をつけることは難しく、人によりばらつきがあるのは理解している。最終的には予算に合わせて、点数の高いところから取っていく。

川西部会長

審査する役割を担っているので、立ち位置として市民が活動したい気持ちを汲み、より良く実現するためにはどうすればいいか、当日は、建設的な意見をしていただきたい。粗探しではなく、良いものを作り上げる目線で見てもらいたい。

當間委員

審査にかかる時間はどのくらいか。

徳原係長

コロナ前のような提案数が出た場合、１３時から始まり、１７時過ぎに終わる。

楢崎委員

選考委員は他にいるか。

齊藤館長

専門部会委員８名のみである。

楢崎委員

年齢的に、提案に対して無難な物を選んでしまうと思う。企業と公共団体では選考基準が違うが、企業の視点では、今、無難な提案よりも、尖ったものが大ヒットを生む可能性を秘めていることもある。選考委員に年齢が若い人を入れた方が新しい視点を生むのではないか。

徳原係長

初めて活動する市民を、市民館としては、後押ししたい。３年間継続して活動していく中で反省を踏まえながら続けていくため、長い目で見てほしい。

川西部会長

選考ポイントにあるように、公益な事業であるか、地域づくりの発展に寄与できるか、地域が活かされているか、地域が持つ課題に切り込んでいるかという視点を踏まえた上での選考だ。今まで、様々な提案があった。例えば、絵本にあるお菓子やお料理を作るなど、「面白そう」と思えるものなども多い。

山本（太）委員

相談を受ける時に、これまでになかったことをやろうと声掛けしていかないと、新たな提案は生まれない。相談の段階からの声掛けが大切なのではないか。

徳原係長

内容が明確に見えていて相談に来る方も、ぼんやり考えていることをどうしたらいいか相談に来る方もいる。今までにない提案を求めることで新たな参加者が増えると考えられるので、声掛けしていきたい。

（２）協議事項

今期の研究課題について

川西部会長

前回の会議以降、１０月２７日、１１月２４日と２回プロジェクトチーム会議を開いた。共有していきたい。

１０月のプロジェクトチーム会議について、情報に関して何を考えているのか話し合った。市民館だよりや広報の方法では、

・ＱＲコードや文字の色はどうか、回覧方法はどのようになっているのか。

・ホームページより、紙媒体の強化が有効ではないか。

・広く配ることで、情報を必要としている人にどのように届けるかが重要。
・手渡しが、確立が高い。
・コンシェルジュの人手が足りないことが課題だ。
・若い人の反応が知りたい。出前講座などについて現状を聞きたい。

など、様々な意見が出た。

（１１月のプロジェクトチーム会議について、当日配付資料「宮前市民館専門部会プロジェクトチーム第２回打合せ記録」を用いて説明。）

今回、２つの会議の結果を受け、市民館だよりを作成している職員にも話を伺いたい。世代により、ライフスタイルもライフステージも違い、意識も市民館との関わりも違う全世帯に向けて市民館だよりを発信するのは難しいと感じた。

髙久委員

１２月号の市民館だよりについて、「高齢者のためのインターネット講座」は、申込みが１２月２３日（金）までに往復はがきで必着となっている。「スマホボランティアによるスマホ相談会」は電話での申込みである。市民館だよりに掲載する講座については、申込方法がある程度統一した方が良いのでないか。最低ラインとしてＱＲコードやホームページから申込みできるといい。

楢崎委員

プロジェクトチーム会議で様々な話をしているが、実際に市民館だよりを作成している方の立場の話を聞いた上で、ＰＲの手段としてどのような方法が良いか、次のステップに進みたい。

當間委員

「みんなで話そう学校あるある」に地域教育会議として参加しているが、募集は、地域教育会議で直接申込みかＦＡＸと指定している。市民館で募集方法を決めているわけではない。来年度は、ＱＲコードからの申込みを提案したい。

インタビューを通して、ニーズが人により違うことが情報伝達の難しさであると感じた。一度にすべての層に認知されることは難しいため、この２年間を通して、どこに対して、どこが足りなく、どこに向かっていくかを絞り、具体案に繋げていけたらと思う。

山本（太）委員

自分が欲しい情報や合う情報をフラットに取り出すことが難しいとわかった。行政として、情報をどうするか、トータル的に全体的な動きがどうなるか考えたい。

渡辺委員

先日、アンケートを取った人には、２タイプがあった。すでに市民館だよりを見て行動している人、市民館だよりなど資料は読まずに友人などを経由で訪ねてくる人である。

普段、資料を読まない、新しい対象を開拓するには、市民館だよりや市民自主学級、市民自主企画事業は言葉そのものが難しく、表現を変えなければ興味がわかな

いのではないか。

市民館だよりの「高齢者のためのインターネット講座」の申込みについて、インターネットが難しいため、往復はがきにしたのだろう。ただ、文化協会の文化講座は、ＱＲコードでの申込みが増えた為、効果はある。

山本副部会長

高齢者から子どもまで対応している民生委員としては、全てＱＲコードやホームページにしてしまう事は高齢者にとって無理な状況にあるのではないかと思う。

子育て中の保護者は保健師からの情報が多いため、保健師との繋がりを密にすることが大切だろう。第４地区民生委員児童委員協議会はインスタグラムで発信し、インスタグラムを見てサロンに来る人もいる。世代によって様々なため、何かに絞って情報発信するのは難しいと感じている。

川西部会長

様々な意見が出た。まずは、市民館だよりを作成している部署から意見が聞きたい。

德原係長

市民館だよりは、各職員が市民館だよりの担当職員へ記事を提出し、紙面の構成を決めて印刷会社へ依頼する。

川西部会長

各館ごとに、市民館だよりの担当職員がいるのか。色など、全市統一な規則はあるのか。

德原係長

決まりはないが、宮前区は白地に青というように、各館で使用している色は決まっている。様々な公共施設や他館に並べられるため、色が被らないようにしている。配架している中で、市民館だよりが色で目に付くようである。

川西部会長

文字数は決まっているので、どの情報を掲載するかは誰が判断しているのか。

德原係長

基本的に、市民館で行っている主催事業、市民自主学級・市民自主企画事業、地域教育会議、文化協会など、その時に出せるものを漏れなく掲載している。　多い時は、１ページに３つの講座を掲載している。

川西部会長

紙面づくりについて、質問はあるか。

髙久委員

宮前市民館として掲載する以上、申込み方法を統一し、一律で電話やインターネットなど基本となるものを網羅してほしい。提出先ごとに申し込み方法が異なるのではなく、様々な人がスキルに合わせて申込みできるようにしてはどうか。

川西部会長

主催する団体が指定する申し込み方法を記載しているのか。

徳原係長

主催団体が対応できない申し込み方法は掲載できない。

「高齢者のためのインターネット講座」の申込みは、以前は、電話やホームページからなども申込みをしていた。だが、ホームページからの申込みはシステム上、タイムラグが出てしまう。先着順では、朝早くから並び、申込み時間になり、電話を頂いても定員になってしまうことがあった。実際に講座に参加した方から、往復はがきにすることで記録が残って良いという意見もあり、往復はがきに統一した。

髙久委員

「スマホ相談会」は電話申込みのようだが。

徳原係長

「スマホ相談会」は、毎月定例で行っている事業だ。使用にある程度慣れている方の相談が中心だ。申込み定員が埋まっても、来月の予定をご案内できるため、電話で受け付けている。

「高齢者のためのインターネット講座」は一昨年から講座を始めたが、申込人数が多いので、全てに返信する負担もあり、往復はがきとなっている。市民館で行っている講座で往復はがきでの申込みは、限られた事業の特異な形だ。往復はがきの書き方はチラシに記載している。

髙久委員

多くの申込みがあるならば、講座の回数を増やしてはどうか。

徳原係長

予算があるため、１年間に何度も開催するのは難しいが、３～４年継続して初心者向けのインターネット講座を毎年開催している。

楢崎委員

多岐にわたる事業を出しているため、市民館だよりの１面に見出しを記載して、ページを世代別や興味別に分けてみれば、見やすいのではないか。自分に合うものを見つけやすいと思う。市民に寄り添えるのではないか。

山本副部会長

アンケートで、表題を見て自分に関係があるか判断するという意見があった。１面にキャッチ―な言葉を入れた見出しを掲載すれば目に留まるのではないか。

川西部会長

わかりやすいキャラクターやマークもいいと思う。

楢崎委員

１面に、見出しがあれば入りやすい。市民館だよりをもっと有効に興味のある人に普及しやすくなるのではないか。

渡辺委員

「みんなで話そう『学校あるある』」は、外部から申し込む際、住所やＦＡＸ番

号などを探して申込むことは難しいのではないか。学校でチラシをもらえなくても、この記事に電話番号だけでも記載があれば、申込みしやすいのではないか。

徳原係長

１面の一番下に問合せ先は記載しているが、わかりにくいだろう。

髙久委員

前向きに検討してほしい。

徳原係長

電話番号の表記も含め、１面に見出しを載せるなど作り方、デザインの変更など、欲しい世代に欲しい情報が届く工夫をしていきたい。

川西部会長

少なくても、問い合わせ先はもう少し濃くわかりやすくしても良いと思う。レイアウトや表現の仕方は検討の余地がある。

山本（太）委員

「みんなで話そう『学校あるある』」は市民館で開催されるのか。

徳原係長

市民館での開催である。

川西部会長

ＦＡＸは記録が残るので情報は確かである。

當間委員

子どもが対象なので、担当がＱＲコードに対応できるか、課題がある。来年に向けて検討はしていきたい。

川西部会長

菅生分館だよりは、イラストも多くマークもありわかりやすい。また、見学か体験かなども一目見てわかるように工夫されている。作成者で検討会を開くことも良いと思う。

川西部会長

一度に全ての市民に情報を出すことが難しいとわかった。どの世代にどの情報を出すか、手厚くするのはどこのターゲット層かを検討しても良いと思う。山本委員の意見にあった、自分に合う情報を引き出し、双方向で交換できるかを検討しても良い。楢崎委員の意見では、もっと多くの人にアンケートを取りたいとあった。プロジェクト会議で検討してはどうだろうか。

徳原係長

今期の研究課題のテーマを決めてはどうだろうか。

川西部会長

研究課題のテーマは、検討しアウトプットが見えるために必要だ。１月にプロジェクト会議を開き検討したい。

１月２４日（火）午後１時半～第２会議室でプロジェクト会議を開催することが決定

した。

閉　会